

平成30年度「おおいた教育の日」推進大会 開催要項

- 1 目的 「おおいた教育の日」の趣旨を広く県民に周知し、学校、家庭及び地域社会が一体となった取組の推進をめざして、推進大会を開催する。
- 2 テーマ 共通テーマ 「手をつなぎ 広げていこう 教育の輪」
年間テーマ 「次代へ引き継ぐ ふるさとの文化」
- 3 主催 大分県教育の日推進会議 大分県教育委員会 竹田市教育委員会
- 4 日時 平成30年11月1日(木) 12時30分～16時50分
- 5 会場 竹田市総合文化ホール グランツたけた(竹田市玉来1番地1)
- 6 参加者 県民、学校教育・社会教育関係者等(約700名)
- 7 次第
 - 第1部(12:30～13:30)
 - ①開会行事 12:30～12:50(20分)
 - ②エッセー入賞者の表彰、朗読 12:50～13:30(40分)
※各部門の最優秀賞(4作品)、優秀賞(8作品)、学校賞(3校)を表彰する。
※朗読は各部門最優秀賞4作品
 - 第2部(13:30～15:30)
 - 瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭(120分)
中学校の部
 - 休憩(10分)
 - 第3部(15:40～16:40)
 - 記念講演(60分)
講師 「岩波 弘之」氏(信州風樹文庫元館長)
演題 地域とともに「信州風樹文庫」
※「信州風樹文庫」は長野県諏訪市にある地域住民の図書館です。
講演内容は設立から運営まで、地域とともに歩む風樹文庫についてです。
 - 閉会行事 16:40～16:50(10分)

平成30年度「おおいた教育の日」エッセーについて

テーマ: ふるさと

竹田市での推進大会の開催は、70回という節目を迎える伝統行事である瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭との合同開催や、新設された総合文化ホールでの開催など、地域(ふるさと)にある伝統や文化、施設を改めて再認識してほしいというメッセージを込めている。

そこで、今回のエッセーのテーマとして「ふるさと」を設定し、広く県民の皆さんの心の中にある心象風景を掘り起こし、地域の姿を見つめなおす機会を持っていただくことを目的とした。

1 応募状況

部門	応募数
小学校の部	791
中学校の部	544
高等学校の部	1,052
大学等一般の部	55
総数	2,442

2 応募数の推移

応募総数

部門	H28	H29	H30
小学校の部	176	266	791
中学校の部	195	584	544
高等学校の部	999	761	1,052
大学等一般の部	32	80	55
総数	1,402	1,691	2,442

参加校数

部門	H28	H29	H30
小学校の部	10	24	24
中学校の部	10	20	19
高等学校の部	4	8	6
大学等	1	1	1

一般の部

	H28	H29	H30
応募数	20	17	17
平均年齢	47	58	64
最高齢	85	80	90

平成30年度「おおいた教育の日」エッセー入賞者一覧

【個人賞】

<小学校の部> 応募総数791篇

作品番号	賞	氏名	学校名	学年	作品タイトル・要約
1024	最優秀賞	ワシズ 鷲頭 ミズキ 瑞記	九重町立 飯田小学校	6年	ふるさとの風景を守りたい 私の家では牛を飼っている。牛を放牧するため、野焼きをする。野焼きは大好きなふるさとの風景のひとつである。今の景色がずっと続いてほしい。父とともに、ふるさとを守っていききたい。
1072	優秀賞	ウトウ 宇藤 サキ 咲綺	豊後高田市立 桂陽小学校	6年	私のふるさと～受けつがれる行事を通して～ 私は小さい時から参加している行事が2つある。打ち水大作戦、地域の盆踊り。「ふるさと」を出た人たちもずっと踊りついでいる。私も受け継がれている行事を大切に守っていききたい。
1012	優秀賞	クニヒロ 國廣 アン 杏	豊後高田市立 臼野小学校	4年	私の自まんのふる里をこれからも 私のふる里、豊後高田市には、自然がたくさんある。牧場や養殖など、自然を利用した産業が盛んで、真玉海岸の夕日は自まんの景色である。今、当たり前前に感じている自然の美しさを、今度は私が守って行きたい。

<中学校の部> 応募総数544篇

作品番号	賞	氏名	学校名	学年	作品タイトル・要約
2058	最優秀賞	カワノ 河野 アオイ 葵	臼杵市立 南中学校	3年	伝統を受け継ぐー御槍振りに参加してー はじめは、軽い気持ちで参加した祇園まつりの御槍振り。参加することを通して、まつりを盛り上げようとする人々の熱意や地域の人々の優しさに触れ、伝統の大切さと郷土のよさに気づき、私は守っていききたいと思う。
2026	優秀賞	アナン 阿南 トモヨ 智誉	竹田市立 竹田南部中学校	3年	災害を希望に 九州北部豪雨で大きな被害を受けた竹田市。復興に向け、自分にできることから取組んでいく中で、多くの人の願いが集まった「グランツたけた」が完成する。竹田市がよりすばらしい町に生まれ変わっていくことを感じ、私は人と人との協力、つながりの大切さを学んでいった。
2001	優秀賞	タツカワ 立川 ハナ 花	佐伯市立 昭和中学校	1年	桜の木 弥生町でよく見かける桜の木。これまでの思い出の中には桜の木がそばにあった。桜の木からあたたかさや優しさを感じ、私は桜の木を心のよりどころとを感じるようになった。

＜高等学校の部＞ 応募総数1,052篇

作品番号	賞	氏名	学校名	学年	作品タイトル・要約
3045	最優秀賞	タカシマ ミヤビ 高嶋 都陽	別府溝部学園 高等学校	3年	ふるさとの人 私がなによりも好きなのは、地域の人たちの温かさ。「看護師なるんちなー、がんばらなで。」などと沢山声をかけてくれる。そんな時に、「ああ、私はやっぱりここで育ったんだなあ、ここに生まれてよかったなあ。」とすごく思う。ふるさとを離れて、初めてわかること。私は私のふるさとが大好きということが。
3063	優秀賞	ゴウ エウ 工藤 優菜	大分東明 高等学校	2年	ふるさと 将来海外に住み、働きたいという夢がある私。しかし、両親には言えずにいた。そんな私の気持ちに気づいていた母に思いを打ち明け、私の目標や夢をいつも応援してくれた母が笑いながら話してくれたのは、「何歳になっても、ここがあなたのふるさとだから」。ここが私にとって大切であり、一番落ち着くすてきな所。
3042	優秀賞	カワノ ナギサ 川野 渚	別府溝部学園 高等学校	2年	大好きな向野 ※向野:杵築市 私を大きく、たくましく成長させてくれたふるさと「向野」。いつでも私を迎え入れてくれる。子どもの頃通った小学校は閉校してしまったけれど、一人一人の力を合わせて笑顔いっぱい向野地区をつくっていく人々。「人々の温かさ」が私の心からの誇り。私は胸をはって「向野」を自慢したいと思う。

＜大学等一般の部＞ 応募総数55篇

作品番号	賞	氏名	居住地	作品タイトル・要約
4008	最優秀賞	タナカ ヨウスケ 田中 祐輔	別府市	生きていくことは、道を覚えることである。 5年前、転勤で別府に転居し、子どもの成長を眺めながら自らのふるさとアイデンティティに悩み始める。ふるさとでの経験が今の自分を作ってくれたことを思い出し、その悩みの答えを見つける。
4015	優秀賞	ワタナベ マサコ 渡邊 正子	大分市	ふたつの ふるさと 両親の生まれ育った和歌山と自らが生まれ育った大分の2つのふるさとを持つ。「食」や「味」を通じた人々との思い出や心の交流はどちらも私の大切なふるさと。
4009	優秀賞	サトウ キミエ 佐藤 キミエ	豊後大野市	ふるさとに生きる ふるさとが嫌いで一度は出て行ったが、切っても切れないふるさととの縁、再び舞い戻ってきたふるさとへの思いを自らの人生に重ねる。

【学校賞】

校種	校名	応募数/児童生徒数	応募割合
小学校	大分市立鶴崎小学校	331/348	95.1%
中学校	日田市立前津江中学校	14/14	100%
高等学校	東九州龍谷高等学校	463/640	72.3%